

建設経済委員会 所管事務調査報告書

令和8年4月28日

犬山市議会議長

大 沢 秀 教 様

建設経済委員長

諏 訪 毅

本委員会は、地方自治法第109条第2項及び犬山市議会会議規則第97条第1項の規定に基づき、下記の事項について調査したので、犬山市議会会議規則第102条の規定に基づき報告します。

記

1. 調査事項

観光客の滞在時間延長（宿泊客の増）について

2. 調査目的

現在、市内の城下町地区には、多くの観光客が訪れているが、日帰り客が多く、一人一人の滞在時間はそれほど長くない。

今後、観光における経済波及効果を高めるため、滞在時間を増やすためには、何が必要か（例えば、食の充実、回遊性の確保等）を調査研究する。

3. 調査方法

(1) 現状把握（執行部からの現状説明・報告及び質疑）

日 時 令和7年7月31日 午前9時59分から午前11時30分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 6名（全員）

出席者 経済環境部長、観光課長、観光課課長補佐

主な内容 市の観光客の滞在時間延長への取組状況について説明を受けた。

- ・犬山城登閣者数、宿泊者数、主な有料施設利用者数等の観光動向や、観光客の消費動向について
- ・市の観光課題について
- ・今後の観光施策について
- ・市のガストロノミー及びモビリティの取組について

(2) 事前準備（行政視察への質問事項検討）

日 時 令和7年8月21日 午後1時00分から午後1時34分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 6名（全員）
主な内容 行政視察に向けた質問事項検討。

(3) 先進地への行政視察

①神奈川県三浦市

日 時 令和7年10月8日 午後1時00分から午後2時30分まで
場 所 三浦市役所
出席委員 6名（全員）
テ ー マ ガストロノミーツーリズムについて
主な内容 ・観光庁の「地域一体型ガストロノミーツーリズム推進事業」の採択を受け、地域の食の魅力を高めるための実証実験やイベントを開催している。
・平成26年4月、市長直轄のプロジェクトチームを発足させ5事業をPPP（官民連携）の活用により推進している。

②栃木県日光市

日 時 令和7年10月10日 午前10時00分から午前12時00分まで
場 所 日光市役所
出席委員 6名（全員）
テ ー マ グリーンスローモビリティについて
主な内容 ・日光西町地域（世界遺産「日光の社寺」の西隣地域）は、優れた観光資源が多く存在しているが、世界遺産地域を訪れる観光客の多くは、訪れていない現状がある。
・路線バスの乗り入れが難しい西町地域に、令和4年4月から、時速20km未満で公道を走ることができる小型電動バス「グリーンスローモビリティ」の導入をし、観光客の回遊性を高め、観光客の満足度の向上、滞在時間の延長を目指している。

(4) 委員間討議（課題の抽出）

日 時 令和7年10月14日 午後1時01分から午後2時01分まで
場 所 第3委員会室
出席委員 6名（全員）
主な内容 行政視察の振り返り。

①神奈川県三浦市

市長直轄専門チームにより、遊休公共地や文化資源の活用について官民連携（PPP）を導入し、「食・文化・体験」を柱とした高付加価値観光が実践されている。犬山でも

「げんこつ飴作り」「和菓子作り」「忍冬酒の瓶詰め」など、既存のものを活用した体験型コンテンツの可能性があると考える。

②栃木県日光市

世界遺産地域からの観光客を「西町地域」へ誘導し、回遊性を高め満足度を向上させることを目指している。車両を市が購入し、東武バス日光が実証実験中だが、その後の本格的な活用は未定である。犬山市への導入については、観光での回遊性向上を目指す場合、エリア選定、交通量、道路状況など限定的な場所での活用が考えられる。

(5) 当局との意見交換（視察報告）

日 時 令和7年10月30日 午後3時40分から午後4時26分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 6名（全員）

出席者 経済環境部長、観光課長

主な意見

- ・食と文化と体験を柱とした観光を地元企業と連携してはどうか。
- ・食の名物を作ってはどうか。
- ・木曾川河畔中心に、グリーンスローモビリティを模索する。また、電動スポーツバイクなど他の手段も検討する必要がある。

(6) 委員間討議（調査結果まとめ）

日 時 令和8年3月17日 午前9時58分から午前10時00分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 6名（全員）

主な内容 所管事務調査報告書案について

4. 調査結果

委員間討議を踏まえ、以下の2点について意見集約した。

- (1) 国宝犬山城、犬山焼、忍冬酒、げんこつ飴など、歴史と食の両面で豊富な素材がある。市民や地元企業と連携し、これらを体験プログラム化することで滞在型観光コンテンツへと繋げること。
- (2) 木曾川河畔を中心に、グリーンスローモビリティや電動スポーツバイクなど他の手段を検討し、回遊性の確保を図ること。